

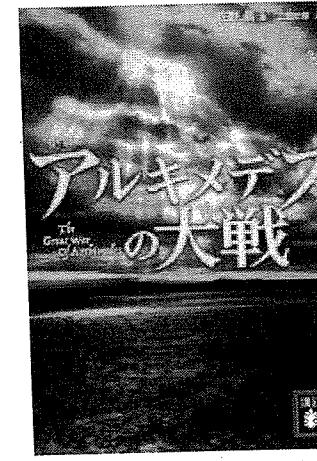
BOOK HOUSE

2019年9月発行

図書委員会 広報班

図書委員のオススメ本

図書委員が店頭選書で選びました！



読書の秋です。興味を持った本があったら読んでみましょう。

アルキメデスの大戦

(佐野晶 著)

この小説の主人公は、第二次世界大戦中、戦艦大和の建造費の見積額があまりに高額なことに気付いた天才数学者の権直（かいただし）（映画版役：菅田将暉）です。権はその事実を世間に公表しようと奔走しますが、軍も必死に隠蔽工作しようとします。彼の凄いところは計算のスピードが尋常ではないという点です。果たして、結末はどうなるでしょうか……。

私は友だちに「この本は面白くて感動するよ」とススメられてこの小説を知りました。友だちは読書が好きで、いつも本を持ち歩いています。面白い本を共有してくれる友だちがいて良かったです。

戦争がテーマとなっている小説のため、重い話のように思えますが、主人公の頭の良さに注目して読むと楽しめると思います。主演の菅田将暉さんが好きな人は読んでみてください（笑）

(2年W)

◇他にも こんな本はいかが?!



君は月夜に光り輝く

(佐野徹夜 著)

いつ死ぬか分からない難病のヒロイン、まみずと出逢い、彼女の様々な願望を「代行」することになった卓也。そんな二人が次第に惹かれ合っていく様が印象的でした。「愛する人の死」というテーマはとても複雑だと思います。

『君の脾臓をたべたい』と内容が似ているところがありました。愛する人の死を目の前にした時、どうするのか。考えることがたくさんありました。映画化もされているので、是非読んでみてください。

(1年H)

私は私のまで生きることにした

(キム・スヒョン 著)

人は誰でも色々な壁にぶつかったり、乗り越えなければならない時があります。このエッセイ集は、そんな時や自分のことが嫌いになってしまいそうな時などに読むと最適です。たくさんの心温まる文章に出会えました。自分の心を癒やしてくれる本です。

私はその中でも特に「全ての人から理解されようとしてないこと」という一文が心に残りました。友達の中で自分のことを理解してくれない人がいたとしても、一人でも理解者がいるならそれでいいんだなと思わせてくれました。

辛くなった時、「また読み返そう」と思える言葉ばかりの本なので、皆さんも是非手に取って読んでみてください。

(1年N)

真夜中のオカルト公務員

(鈴木麻純 著)

「アナザー」と呼ばれる人ならざるもの達が引き起こすオカルト的事象を解決するため、東京二十三区の区役所に存在する「夜間地域交流課」。そこに配属された新人の宮古新は早速、天狗の抗争に巻き込まれて…。

人間と「アナザー」との考え方の違いが度々出て来て面白いです。今年、アニメ化もされました。ファンタジーだけど実際の地名も出てくるので不思議な感覚になる小説です。

(1年N)

しき

(町屋良平 著)

あなたは我を忘れるくらい何かにのめり込んだことはありますか？この小説の主人公は特技ナシ、反抗期ナシ、フツーの高校二年生星崎。彼がのめり込むのはダンス。友情、恋、複雑な人間関係がリアルに描かれています。

会話文が多く、読みやすいです。主人公と同年代だからこそ、この本の世界に入り込めると思います。

(2年H)

100日間、あふれるほどの「好き」を教えてくれたきみへ

(永良サチ 著)

余命三ヶ月を宣告された海月はクラスの人気者、悠真と出会ったことで一秒でも長く前向きに生きることを決意します。二人はやがてお互いに惹かれ合い……。真っ直ぐな愛に涙なしには読めない感動の青春小説です。あまり難しい内容ではないと思うので、本を読むのが苦手な人におすすめです。是非、一度図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

(2年I)